

# 特別養護老人ホーム 万寿の家



外観

1965(昭和40)年に、兵庫県で最初に開設された特別養護老人ホーム。老朽化対策と質の高いサービスの提供を目指して、2020(令和2)年に新築移転。介護ロボットの導入やノーリフティングケアなどを先駆的に実施。



フロアマップ



1Fは地域の方も利用できる共用スペース、2-4Fは居室フロアで構成。定員は100人で、10人をひとつの単位とするユニットケア方式。トイレは各ユニットごとに3ヶ所、浴室は1フロアにつき3ヶ所設置している。



1F 施設利用者用玄関

正面玄関受付横には、施設に入リする前後に手が洗えるように洗面器を設置。冬場でもしっかり手洗いできるように電気温水器も備えており、手洗い消毒を徹底して実施している。



1F カフェ

地域の方の憩いの場所にもなる、コミュニティカフェ。キッチンの傍らに電気温水器付きの洗面器が設けられ、スタッフや利用者が気軽に手が洗えるように配慮されている。



1F トレーニング室

トレーニング室にも、電気温水器付きの洗面器を設置し、手の汚れが気になった際にトイレまで行かずに手洗いできる環境を整えている。



1F お客様用トイレ



節水化を図るため、パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式と自動洗浄小便器、自動水栓を採用。各コーナーの1ヶ所には手すりを設け、バリアフリー配慮も行っている。



1F お客様用バリアフリートイレ



車いす使用者に配慮し、広さを確保したバリアフリートイレには、コンパクトオストメイトバックやパブリック用折りたたみシートを併設し、さまざまな利用者に対応できる仕様としている。



1F スタッフ用トイレ



お客様用トイレと同じ大便器と小便器、さらに自動水栓やウォシュレットを採用し、快適性に配慮したトイレ空間。さらに、ウォシュレット管理清掃用リモコンも備え、管理がしやすいようにしている。



1F スタッフ用玄関

スタッフ用の玄関にも、衛生性に配慮し、電気温水器付きの洗面器を設置。利用者やスタッフすべての人々に衛生性への配慮がなされ、安心して生活できる環境づくりを行っている。



1F 厨房用玄関

厨房専用の玄関には、よりしっかり手洗いできるようにスタッフ用手洗いを設置している。



2F ユニット入口



ユニットのゾーンごとに異なる愛称を用い、2Fは港町である「神戸」を連想させる「港」と「さざ波」。識別しやすいように入口の色もそれぞれ変えており、共同生活室にあるキッチンの色も同じにしている。



2F ユニット内共同生活室

施設の利用者が手洗いをするための車いす対応洗面器と、介護スタッフが手洗いをするためのスタッフ用手洗器の2種類を設置。スタッフ用手洗器は、あふれ面を850mmと高くすることで腰の負担を減らしている。

# 特別養護老人ホーム 万寿の家



2F ユニット内トイレ



各ユニット3ヶ所のうち1ヶ所のトイレは、扉を2面にして開口部を広くとることができる引戸を採用。トイレへのアプローチ性を高めている。



2F ユニット内トイレ



詰まりの発生に早期対応できる掃除口付大便器を採用。前方ボードは、はね上げとスイングタイプの両タイプを取り入れ、左右勝手違いで設置。さらに、壁面の色を濃くすることで手すりの視認性を向上させている。



2F ユニット内汚物処理コーナー

汚物処理室とは別に、2つのユニット共用で1つ設けられた汚物処理コーナー。汚物流しで衣服などについた汚物を軽く落としてから、洗濯機で洗濯するなどの用途に用いられる。



2F 浴室 脱衣所

各フロア3ヶ所の浴室の内、1ヶ所の脱衣所内には、トイレを設置。背もたれ付のトイレ用すりと前方ボードを組み合わせて採用。天井走行リフトも備え、利用者と介護スタッフの移乗負荷軽減の取り組みがなされている。



2F ユニット内居室

各居室には、足元空間が広く車いすで奥までしっかりアプローチできる、車いす対応洗面を採用。さらに、吐水空間が広く使え、湯水の切り替えや手動への切替が可能なグースネックタイプの自動水栓を組み合わせている。



2F 汚物処理室

1フロアに1室設けられた汚物処理室。洗濯や物干室に隣接し、業務用の洗濯機を設置している。同室内には、汚物流しと掃除用流しを併設し、補高台を設置することで腰に負担をかけず作業しやすい高さに調整している。



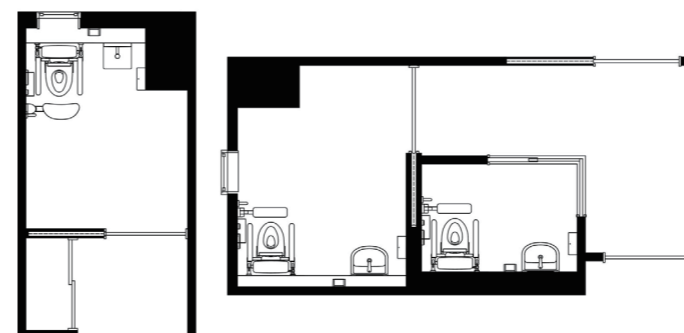
2F ユニット内居室

必要に応じて取り付けられるベッドサイド水洗トイレを10台用意。利用者の身体状況により共用トイレまでの移動負担と、スタッフの介助負荷を軽減することができる。



2F ユニット内居室

必要に応じて居室にベッドサイド水洗トイレを設置することができるよう、全居室にベッドサイド水洗トイレの給排水管の取り出し口を用意。さらに、目隠し用のボックスを造作し、見た目にも配慮している。



ユニット内トイレ図面

1ユニットにつき、3サイズのトイレ空間を設置。設置する器具や左右勝手違いにするなど、利用者にあわせてトイレが選べ、介助がしやすいように設備を整えている。

## 水まわりの特長

### 建物の特徴

「特別養護老人ホーム 万寿の家」は、1965(昭和40)年に兵庫県で最初に開設された歴史のある特別養護老人ホーム。兵庫県立の特別養護老人ホームとしてスタートし、2005(平成17)年から社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団に運営を移管し、現在に至る。このたび、築53年が経過し老朽化対策と、より質の高いサービスの提供を目指して移転新築された。築いてきた歴史や知見を基盤に、法人内の研究、研修施設である福祉のまちづくり研究所との連携のもと、介護用リフトや見守りシステムなど、介護ロボットや福祉機器などを積極的に導入。持ち上げない介護「ノーリフティングケア」に取り組んでおり、介助負担の軽減比較のデータをホームページ上で公開。県下特養のトップランナーとして発信している。

### 水まわりの特長

今回の移転整備にあわせて新たな空間を創造するためにスタッフ間でワークショップを実施。水まわりに関しては、介護スタッフがTOTOテクニカルセンター大阪を訪れ、トイレに必要な器具や寸法などを確認した。2-4Fの居室フロアは、10人をひとつの単位とするユニットケア方式で全100室。1ユニットに3ヶ所の共用トイレが設置され、すべてのトイレにトイレ用すりと前方ボードを採用している。また、全居室には、車いすでアプローチしやすい洗面台と必要に応じて居室に水洗トイレが設置できるようベッドサイド水洗トイレの給排水管の取り出し口を用意している。さらに、衛生性への取り組みとして、玄関をはじめトイレ以外の要所にも、手洗い設備を増設するなどの要望が取り入れられている。

### 建築概要

名称	特別養護老人ホーム 万寿の家
所在地	兵庫県神戸市北区鳴子3-1-18
施主	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
設計	株式会社黒田建築設計事務所
施工	建築 株式会社ソネック 設備 不二熱学工業株式会社

竣工年月	2020年8月
敷地面積	13,874.82㎡
建築面積	1,940.00㎡
延床面積	6,102.00㎡
構造・階数	鉄骨造、地上4階

### おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS49\*B系
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF553\*系
- ウォシュレット管理清掃用リモコン:TCA393
- ベッドサイド水洗トイレ:EWRS320R
- 柵付二連紙巻器:YH600FM、YH702
- 柵付紙巻器:YH501
- 自動洗浄小便器:UFS900JCS
- 車いす対応洗面(居室向け):MVHF
- 壁掛ハイバック洗面器:LSE125AA、LSE135AA
- 洗面器:L350CM、L210C
- マーブライトカウンター(陶器タイプ):ML35
- マーブライトカウンター(ポウルー一体タイプ):MC60
- 台付自動水栓:TENA41A、TEN85G1、TEN84GH
- 水石けん入れ:TLK05202J、TLK05203J
- 電気温水器:REWF03B11、RECK03B1
- コンパクトオストメイトバック:UAS81LDB2NW
- トイレ用すり(はね上げタイプ):EWC7\*3系
- 前方ボード(はね上げタイプ):EWCST20AR
- 前方ボード(スイングタイプ):EWCST740
- スタッフ用手洗器:LS850EPA
- パブリック用流し:SKL330HNFP